

本庄市水道事業ビジョン（案）修正箇所

第 1 回審議会配布資料からの修正箇所を記載しています。

全体：図表を文字の見やすい色に変更し、図と文字を大きく変更

「取り組み・取組み」→「取組」に修正

「参ります」→「いきます・します」に修正

和暦の後に西暦を追加 例 令和 7 年（2025 年）

該当部分	修正内容
表紙	計画期間の表記を削除
目次	章ごとに 1 行の間隔を挿入
p 1 図 1 - 1 - 1	本庄市水道ビジョンと本庄市水道事業ビジョンの策定年月を追加
p 7 表 2 - 1 - 3	「2024 年度末」→「2023 年度末」
p 9 （1）水源、図 2 - 1 - 3、表 2 - 1 - 4	県水の計画取水量を 8,400 m ³ /日から 6,500 m ³ /日に修正 合計を 53,790 m ³ /日から 51,890 m ³ /日に修正 水源の割合を修正し、図に反映 「自己水源の内」→「自己水源の内訳として」
p 17 （2）料金収入の推移	「約 300 万円」→「約 600 万円」
p 17 図 2 - 1 - 9	図を給水収益と有収水量に分割
p 21 図 2 - 1 - 15	類似する水道事業体の平均値を令和 5 年度数値に変更
p 30 図 2 - 2 - 2 施策 1	「評価」→「強化」
p 30 図 2 - 2 - 7 施策 4	「強靱」→「持続」
p 33 3 - 2 - 2 管路	図 3 - 2 - 3 に合わせて 12 km→11 km、182 km→186 km、258 km→263 km に修正
p 42 図 5 - 1 - 2	課題と実現方策が欠落していた部分を修正
p 51 図 5 - 2 - 6	図を統合前と統合後で分割して表記
p 52 表 5 - 2 - 5	浄水施設及び配水池の耐震化についての注釈に経緯及び料金改定後の見通しを追加
p 59 5 - 1 健全な経営の維持	料金改定の実施及び今後の財政収支の見通しを追加

第4章 基本理念と目指す方向性

4-1 基本理念

安全で安心な水道水を安定的に供給するという水道が果たすべき役割の重要性を踏まえ、現状の課題を計画的に解決していくことによって、サービスの維持、向上に取り組めます。

これからも利用者との信頼関係の醸成を心がけ、安心して水道水を使い続けていただけるよう、「信頼を未来へつなぐ 本庄の水道」を基本理念として掲げ、水道事業者としての使命を果たしていきます。

基本理念

信頼を未来へつなぐ 本庄の水道

4-2 目指す方向性

基本理念のもと、旧厚生労働省の新水道ビジョンにおける「安全」、「強靱」、「持続」の3つの観点を念頭に、今後、本市の水道事業が目指す方向性を決めました。

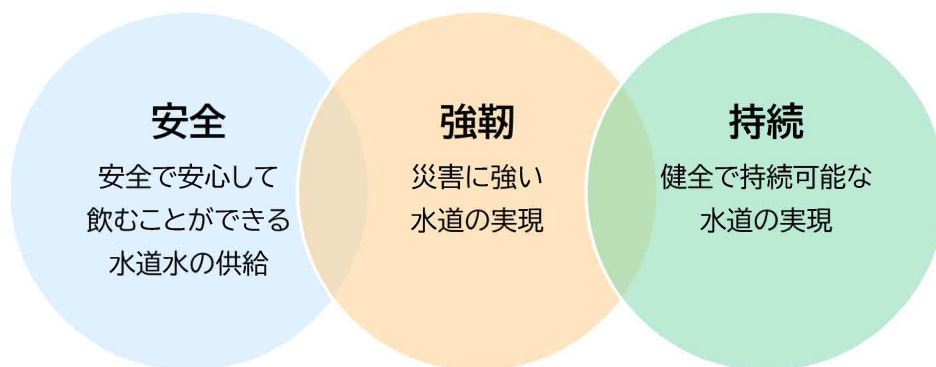


図4-2-1 目指す方向性

2-3 水道施設の最適化

人口減少や節水機器の普及により配水量が減少しており、今後の水需要に合わせた水道施設の統廃合やダウンサイジングを検討していきます。

統廃合やダウンサイジングの検討にあたっては、施設の重要度、老朽度、施設における1 m³当りの生産コストや施設能力などの調査に時間を要することから、計画的に作業を進め施設の最適化を進めていきます。

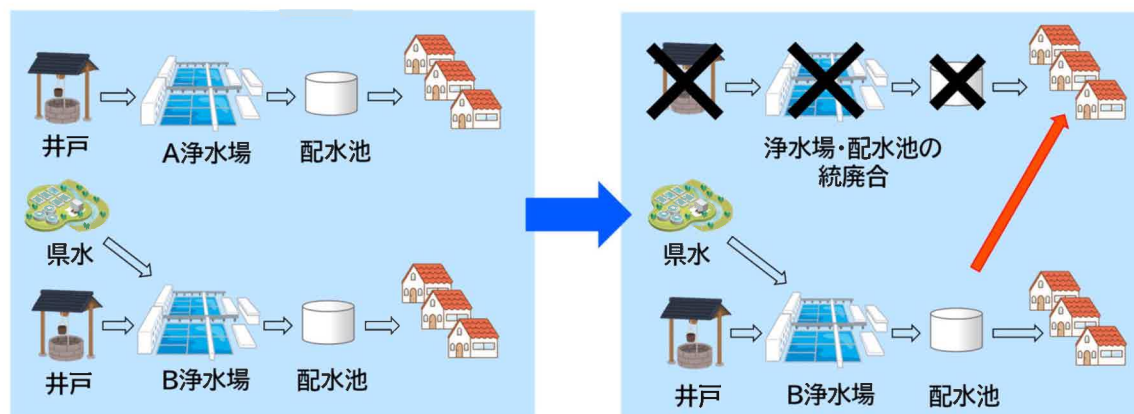


図5-2-6 施設統廃合イメージ図

表 5-2-4 施策2（強靱）における取組事業一覧

取組事業	取組内容
2-1 浄配水施設の計画的耐震化と更新	耐震化(浸水対策含む)工事を計画(整備・調整)する ・第二浄水場の耐震化(浸水対策含む)の計画(整備) ・都島浄水場の耐震化(浸水対策含む)の計画(調整)
2-2 管路の計画的耐震化と更新	・年間約 5.0km の管路整備 ・漏水や濁水の発生確率が高い老朽管の更新 (本庄地区:CIP 管、児玉地域:塩化ビニル管) ・第二浄水場の耐震化に合わせた導水管の更新 ・第二浄水場から下真下受水場、下真下受水場から高柳配水場までの送水管更新(管路 DB 方式)
2-3 水道施設の最適化	・施設の 1 m ³ あたりのコストや老朽度、施設能力等から施設の最適化検討を行う

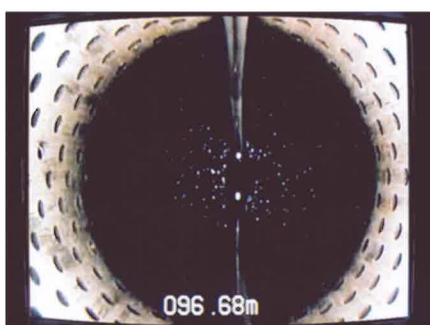
施策4 既存施設の適切な運用と長寿命化(持続)



4-1 井戸の定期調査と長寿命化の実施

井戸水源は、設置当初と比べ、水需要の変化もあることから、「2-3 水道施設の最適化」を踏まえ、統廃合等、設置数の見直しを行います。

また、本市の主要な水源である深井戸の半数以上が設置から40年以上経過しているため、今後も継続して利用する井戸については、ケーシング管更新時に井戸の内部調査や揚水試験を実施し、調査結果に応じた対策（ブラッシングやしゅん漠^{*21}等）を計画的に行っていきます。また、浅井戸についても、適切な維持管理の実施に努めます。



井戸カメラによる井戸孔内の内部調査



井戸のブラッシング

4-2 施設(機械・電気設備、構造物)の保全

機械・電気設備及び構造物（配水池や管理棟等）について、予防保全による事故リスクの低減や更新費用の削減に努めます。具体的には、事故を未然に防ぐため定期的な保守点検を行うとともに施設の長寿命化を図るための更新基準年や整備方法を定める計画を策定し、事故リスクの低減、修繕及び更新費用の削減を目指します。



電気設備の点検



更新予定設備（下真下受水場送水ポンプ）

^{*21} しゅん漠

井戸のメンテナンスとして、専用の洗浄器具を用いて、井戸の底に溜まった砂をさらう工事です。